

最近、東名高速道路でワゴン車にトラックが追突し、夫婦二人が亡くなるという痛ましい事故がありました。この事故では、直前に別の車が関わっていたということで、単なる事故とは別の様相を呈していますが、個人的に気になったのは、追突したトラックに自動ブレーキは搭載されていたのか、ということ。その点について触れたニュース記事は見当たらなかったのですが、もし搭載されていたら追突は回避できたのだろうかと考えてしまいます。

そう思って調べると、自動ブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）は、現状では、天候などの環境が良ければ、歩行者に対してかなりの精度を発揮するものから、歩行者には対応せず、30km以下のスピードの場合でのみようやくストップするという「無いよりマシ」といったものまであり、千差万別のようなのです。そのため自動ブレーキを評価する国際的な統一基準を今後作成し、全乗用車への義務化が進められていくとのこと。まだまだ完璧には程遠くさらなる改良が必要ではありますが、このような運転の支援技術が進めば、先のような事故も回避できるようになるのでしょうか。

運転中のうっかりミスが少なくない私としても、重大事故が起こらないように運転をサポートしてくれる自動車が一刻も早く普及して欲しいと、車庫入れの失敗で傷つけた車の修理代を見ながら思うのでした。（S.S）

新し物好きとしては、辛抱たまらず最近流行りのAIスピーカーを買ってしまいました。大手検索サイト製で、挨拶をしたり質問したりすると、なめらかな合成音声で返事をしたり質問内容の検索結果を答えてくれます。病院の診療時間やお店の営業時間まで教えてくれるし、天気予報もなかなか重宝します。調理中に手が汚れていても、口で「〇分後にアラームを鳴らして」と言えば、クッキングタイマー代わりにもなります。

また、定額配信サービスの動画をWi-Fiで受信して家庭の大型テレビに映し出せるデバイスもセットで購入し、連動させたので「〇〇の映画がみたい」と声で言えば、その映画をテレビ画面に映し出してくれます。レンタルDVD屋さんまで借りに行く必要がなくなりました。

家電製品を口頭で操作できる家電連動機能は、今のところ海外メーカーのLED電球のみのようですが、これから徐々に増えていくでしょう。他社製のAIスピーカーでは、テレビのリモコンの赤外線信号を登録することで、口頭でテレビの音量やチャンネル切り替えもできるらしいので、そのくらいの機能は備えてほしいなあと思うところです。

AI相手の無駄話は面白いのですが、投票日の翌朝、「選挙で自分から投票する権利を放棄するのはバカげているよね」と聞いたところ、「お役に立てません」と答えられてしまいました。苦笑。（Y.H）

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知して、そこへ行った時

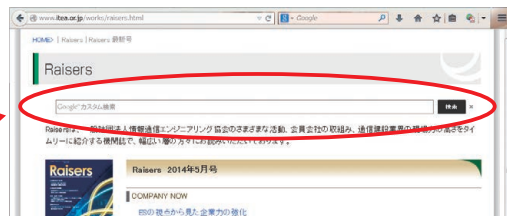
「Raisers」はホームページでも閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から

読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご利用ください。



Raisers第 65 巻 第 6 号 (通巻第727号) 平成 29 年 11 月 5 日印刷 平成 29 年 11 月 10 日発行

定価 648 円 (本体価格600円) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)

